

令和7年度 教育目標

《心身ともに健康で豊かな情操と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成》



花王



第三小学校だより

No. 3

令和7年4月16日

発行責任者 森藤雅之

4/16 PTA総会校長あいさつの際に花王第3号を配付し、あいさつをしました。

保護者の皆様には日頃より本校教育活動に温かなご支援をいただいておりますこと深謝いたします。本日、総会開催にあたり、ごあいさつを申し上げます。

「あ」「た」「ま」を大切に 明るいあいさつ 楽しく友達と遊ぶ 前向きにチャレンジ

学校だより「花王 第1号 第2号」でお伝えした通り、始業式と入学式において子どもたちに以下の話をしました。

- 「あ」 明るいあいさつをしましょう。
あいさつで周りの人たちの気持ちを明るく朗らかにしましょう。
- 「た」 楽しく友達と遊びましょう。
友達にいじわるをしてはいけません。いじめをしてはいけません。
- 「ま」 前向きに何事にもチャレンジしましょう。
失敗したら何度でもやり直せばいいのです。

職員も「明るいあいさつ」「楽しく職務にあたる」「前向きにチャレンジ」の言葉を大切にしながら職務にあたっています。

保護者の皆様には以下の三点をぜひお願いいたします。

- 「あ」 明るいあいさつをこれまで同様にご家庭でお願いします。
- 「た」 楽しい気持ちで子育てをしましょう。ぜひ会員同士のさらなる交流を。
- 「ま」 前向きにチャレンジする姿をご家庭で子どもたちに見せましょう。

家庭、地域、学校のあらゆる場面で子どもたちの自己肯定感を高めていきましょう

子どもたちは小学校の段階では、ご家族に守られ、困難に出会ったときでもご家族と一緒に乗り越えていきます。

しかし、子どもたちは10年前後で家族の元を離れて、一人で生活するようになります。さらに子どもたちはこれから成長するに従い、乗り越えることが難しい困難に出会うことがあるでしょうし、乗り越えられない困難を経験するかもしれません。

そのときに必要なものは一体何でしょうか。知識・技能であるかもしれませんが、思考力・判断力であるかもしれません。また、ともに乗り越える仲間であるかもしれません。最も大切なことは「自分はやればできるんだ」という自己肯定感を子どもたち一人一人が持っていることです。

自己肯定感は幼少の頃から

- 「チャレンジする→成功する→褒められる・認められる」
- 「チャレンジする→失敗する→励まされる→もう一度チャレンジ→成功→褒められる・認められる」

の繰り返しによって得られるものです。

家庭、地域、そして学校でこれまで同様に連携を図りながら子どもたちを認め、励まし、自己肯定感を高めていきましょう。

令和7年度 教育目標

《心身ともに健康で豊かな情操と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成》



花王



第三小学校だより

No. 4

令和7年4月25日

発行責任者 森藤雅之

「あ」「た」「ま」を大切に

明るくあいさつ

楽しく友達と遊ぶ

前向きにチャレンジ



写真は4月の放課後、校庭の風景です。

体育主任を中心に体育部に所属する職員が協力して校庭にトラックのラインを引きました。

学校では子どもたちがとても楽しみにしている運動会に向けての練習がすでに始まっていますが、安全にそしてけがなく子どもたちが練習できるように環境を整備しました。

運動会は学校における大きな行事のひとつです。職員も子どもたちが力を発揮できるよう張り切って指導しています。

保護者の皆様、運動会当日は、子どもたちが一生懸命に取り組む姿、そして、子どもたちとともにがんばる職員の姿をご覧ください。

運動会を通して保護者の皆様と学校で連携して子どもの自己肯定感を高めましょう

運動会という大行事にあたり、子どもたちの自己肯定感を高めるために、保護者の皆様とともに取り組みたいことがあります。

団体種目では勝った組にも負けた組にも大きな拍手をお願いします

団体種目で勝った組は、全員が整列し、勝旗をもらいます。その後、相手陣を通して自陣に戻ります。勝った組が保護者の皆様の前を通った際、大きな拍手をお願いします。子どもたちは1,000人以上からの拍手をもらい自己肯定感を高めることでしょう。

残念ながら負けてしまった組は競技後、すぐに自陣に退場しますが、負けてしまった組にも健闘を称える拍手をお願いいたします。

個人走（徒競走）については入賞・順位にかかわらず取組への称賛をお願いします

個人走（徒競走）は身長順の組ではなく走力順の組で行います。ただし一年生は入学直後であることから身長順で実施します。

走力順の組で実施する理由の第一は安全面です。走力に大きな差がある児童が同組で走った場合、大きなけがにつながる心配があります。理由の第二は同程度の走力の子と競うことは教育的な価値がより高いと判断したからです。

入賞した子も入賞できなかった子も練習での取組や当日の走りを学校で称賛しますのでご家庭でもぜひ具体的な成長を認め、自己肯定感を高めていただきますようお願いいたします。

二見屋工業株式会社より寄付をいただきました

二見屋工業株式会社 代表取締役社長 矢ヶ崎 光信 様より学校教育に役立ててほしいと須賀川市内小学校・義務委教育学校前期課程に寄付をいただきました。ありがとうございました。

第三小学校では子どもたちの教育のためにどのように活用するかを検討中です。できるだけ早い時期に決定し、子どもたちの教育に役立てていきます。